



# きずな

## ミロ札幌招待 第26回コープさっぽろ杯 サッカースポーツ少年団大会

### 札幌トレセン U-12RED の優勝で幕！

#### 初出場 SCH フットボールクラブ (横浜市) が準優勝

夏休みの札幌を舞台に4日間の日程で行われた大会でした。道外から参加の7チーム、北海道各地区のトレセン8チーム、札幌の各区トレセン13チーム、札幌トレセン3チームとコンサドーレ札幌U12の計32チームが8つのブロックに分かれてリーグ戦を行い、上位2チームが決勝トーナメントに上がりました。各チームとも日頃の練習の成果とチームワークを発揮し、レベルの高いサッカーを展開していました。ハイレベルなゲームの中で多くを学び、成長していく選手たちの姿が見られました。

大会序盤は大雨で気温も低く、遠征でやってきている選手にとっても、大会開催にご尽力いただいた皆様にとっても、本当に気の毒なコンディションの中で予選リーグを行いました。天候が回復した3日目以降は、暑すぎることもなく、さわやかな空気の中で決勝トーナメントを実施することができました。

大会期間中、道外チームは札幌のチームへホームステイ。サッカーを通じて新しい友達ができ、泊を共にする中で友情を育み、とても貴重な体験であったことと思います。大会を通じて学んだ「サッカーファミリーの絆」が今後の人生に役立つことを願うばかりです。

以下に決勝戦と3位決定戦の様子をレポートします。



決勝 7月29日(火) SSAPグラウンド

札幌トレセンU12RED SCHフットボールクラブ

6

3-0  
3-1

1

天気にも恵まれた決勝の舞台。試合開始のセレモニーは、HTBアナウンサーによる選手紹介で始まりました。32チームの頂点を決める決勝戦にふさわしい、いいムードに包まれました。



開始早々から⑰⑫⑱の3選手の細かいパス回しで崩しにかかるSCHに対し、札幌は⑧⑥の鋭い寄せで対抗、中盤での激しい奪い合いが続きました。最初のチャンスは札幌。前半6分、混戦の中から⑤のスルーパスに⑩が抜け出し、落ち着いてゴール。見事にファースト



チャンスをものにしました。その後はSCHのペースで試合が進みます。8分

には中央からドリブルで切れ込んだ⑫が鋭いシュート！しかし、札幌GKのファインセーブで得点することはできません。SCHはセットプレーにも優れ、③のコーナーキックや④の直接フリーキックから何度もゴールを脅かしますが堅い札幌のディフェンスが何度もシュートをブロックして守りました。前半

15分あたりから札幌もペースを取り戻します。16分、コーナーキックのこぼれ球を⑥が押し込んでゴール。続いて17分、混戦の中からドリブルで抜け出した⑩がキーパーの頭上を狙う見事なループシュートでゴール。あっという間に3対0となり、前半を終えました。

後半も最初のチャンスは札幌。4分、大きなサイドチェンジから③がゴール前に突入しましたが、逆サイドから戻ったSCH⑩の懸命なブロックで阻止。そこからSCHはペースを取り戻しました。フォーメーションを変え、シンプルに前線の3人にボールを送り、札幌ゴールに迫ります。7分には⑩のミドルシュート、④の直接フリーキック、9分にも意表を突く⑩のミドルシュートがありました。札幌GKのパンチングや足でのセーブで得点には至りませんでした。SCH攻勢の状況を打開したのは、やはり札幌⑩。カウンターからドリブルで抜け出すとキーパーの前で左にやさしいパス。走りこんだ⑭が落ち着いて決め、試合を決定づけるゴールとなりました。

12分、SCHはスローインを受けた⑩の豪快なロングシュートが決まり、1点を返しますが、15分には札幌⑭のキーパーの股下を抜くゴール、20分にはエリア付近の競り合いからこぼれたボールに反応した⑤のゴールで突き放し、札幌トレセンU12REDが6対1で勝利しました。点差はつきましたが、さすがは決勝戦。ホームステイ先のチームや準決勝で敗れたチームも観

客席から熱い声援を送り、素晴らしい雰囲気の中で大会の終了を迎えることができました。



3位決定戦 7月29日(火) SSAPグラウンド

藤枝トレセンU12	コンサドーレ札幌U12
2	0-0 2-1
	1

準決勝でSCHフットボールクラブに延長の末敗れた藤枝トレセンと札幌トレセンに0対1の接戦で敗れたコンサドーレ札幌の対戦でした。

左サイドの⑩と右サイドの④の両サイドバックが豊富な運動量で攻守に活躍するコンサドーレに対し、

藤枝は中盤での激しいプレッシャーで応戦。開始から中盤での激しいボールの奪い合いが続きました。両チームともに、組織的なディフェンスが機能しました。的確なポジショニングでパスコースを作らせず、強引に出されるボールはほとんどがパスカットされてしまいます。前半16分の藤枝のチャンスは③のスルーパスに抜け出した⑦のシュート。コンサドーレGKのファインセーブで、前半を折り返しました。チャンスらしいチャンスがほとんどなく、本当に見ごたえのある両チームの守備でした。



後半に入ると、両チームともにゴールに迫る場面が増えてきました。初めのチャンスはコンサドーレ。③のスルーパスから左サイドを上がった⑪のセンターリングを⑨がヘディングシュート、さらには⑪のスルーパスに抜け出した⑭のシュート、どちらもGK



に阻まれました。藤枝のチャンスは7分。中盤でボールを奪った③からボールを

受けた⑩がワンタッチで前線の⑨へスルーパス。これを落ち着いて決め、とうとう藤枝トレセンが先制しました。9分、コンサドーレのコーナーキック。ゴール前の混戦の中、藤枝がクリアできず、コンサドーレ⑨が押し込んで同点に追いつきました。14分のチャンスは藤枝。②の直接フリーキックをコンサドーレGKがはじいたところに⑫がしっかりと詰めて押し込みました。これで2対1です。その後両チームともにスローインやフリーキックを巧みにつないでシュートまでもっていくものの、ディフェンスのチェックが激しく、いいシュートを打てないまま試合終了のホイッスルが吹かれました。

惜しくも決勝に進めなかった両チームでしたが、素晴らしい戦いを見せてくれました。

